11
November 2015
No.714

熊歯会報

Kumamoto Dental Association

熊本県歯科医師会

CONTENTS

- 巻頭言（専務理事　渡辺賢治）…… 3
- 理事会報告 …… 4
- 報告　「大久保前日歯会長講演会」…… 7
- 報告　「リハビリテーション・ケア合同研究大会2015神戸」…… 8
- 委員会報告 …… 11
  （厚生・医療管理、広報）
- 事業課報告「ケイ・デー・エム・ユー　相続対策セミナー」……15
- 航跡…… 16
- 郡市会報告 …… 21
  （天草郡市、上益城郡、阿蘇郡市）
- 新入会員…… 23
- グルメハンター…… 24
- 会務報告…… 25

― 歯科医師の倫理綱領 ―

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

公益社団法人　日本歯科医師会

表紙に寄せて

玉名市役所横市民広場公園で行われたキャンドルフェスティバルの写真です。あたたかみのあるキャンドルのあかりに癒されます。　（N.Y）

「今回の日歯連盟事件について思うこと」

専務理事　渡　辺　賢　治

現在、日本歯科医師会ならびに日本歯科医師連盟はその長い歴史の中でも最大のピンチに陥っている。本年４月30日の東京地検特捜部による日歯連盟に対する家宅捜索に端を発する。容疑は、日歯連盟が組織内から擁立した参議院議員２人の後援団体に迂回寄付をした疑い。当時の高木日歯連盟会長は公式の場で「法律の制限の範囲内にある合法的な処理で形式的にも実質的にも合法」と説明していた。また、日歯連盟の嘱託弁護士も「虚偽記載と言うがお金の流れをそのまま記載しており、どこにも偽装工作はない。決して巧妙ではないし悪質という言葉もそぐわない、起訴できるような事案ではない」という考えを示した。

その後、地検の捜査は関係者への事情聴取、さらには全国十数か所の歯科医師連盟の家宅捜査にも及び、過去の選挙運動に関し公職選挙法違反の疑いで事情聴取や関係書類の押収などが行われた。特に参院選の電話作戦の経緯について、資金の流れや公示前の選挙運動を禁じた公職選挙法に抵触するものと捜査が進められた。また、支援者名簿作成や選挙活動資金の流れなどが捜査された。

９月30日には、高木幹正日歯会長（前日歯連盟会長）、村田憙信前日歯連盟副理事長、堤直文元日歯連盟会長の３人が政治資金規正法違反（虚偽記載、寄付の量的制限超過）容疑で逮捕された。拘留期間は二十日間、拘置所での取り調べは辛く厳しいものと予想され、70歳を過ぎた３人の先生方の健康状態も心配された。

そして、拘留期限の切れる本日10月20日、遂に東京地検は３人を政治資金規正法違反の罪で起訴した。さらに両罰規定に基づき団体としての日歯連盟も起訴された。なお公職選挙法違反は見送られた。３人は違法性を認めておらず、身の潔白を主張している。今後は裁判の中で争われることになり、かなりの時間を要するものと思われるが、どのような展開になるのかは全く予測ができない。

今回の事態は国民の歯科医療に対する不信感を招き、全国の会員も困惑と失望の中にあり、日歯ならび日歯連盟には一刻も早い対応でこの難局を乗り越えていただきたい。我々会員はあくまで無罪を信じているが、このような事態に陥ったことに対し日歯連盟はその現実を重く受け止めなければならない。その上で組織の刷新を図り、一刻も早く国民ならびに会員の信頼回復に着手しなければならない。

最良な歯科保健・医療・福祉の実現には日歯、日歯連盟の存在が不可欠であることは会員も理解している。我々は単に診療報酬のために参議院議員を応援しているわけではない。それは「生きる力を支える生活の医療」としての歯科医療・保健・福祉の存在意義を国会、行政、国民に広く発信し、他職種と連携を図りながら「国民の健康長寿実現」に寄与するという究極の目的を持っているからだ。

連盟存続の意義が問われる声も聞こえてくる。しかし、個人ではできない組織の力やあり方を考えていただきたい。問題が起きたから終わりではない、後に続く後輩たちのためにも組織を立て直し、新たに出直すしかない。この逆境の中、一丸となって困難に立ち向う姿勢を示そう。「危機という言葉は危険と好機という二つの漢字でできている」困難の中にも立ち直る機会やチャンスがきっとあるはずだ。

そして、臨床の現場を担う私たち歯科医師はこれからも歯科医療・保健・福祉への強い情熱を持って、正々堂々と迷わず一歩一歩進んでいくしか道はない。

理事会報告

災害対策をもう一度検証

― 第５回理事会 ―

９月25日（金）午後７時より県歯会館において、浦田会長他田中・椿理事を除く全役員、伊藤学院長出席のもと開催された。

１．開会：中嶋副会長

２．挨拶：浦田会長

最近、急に涼しくなりましたので、体調管理には十分お気を付けください。さらに、シルバーウィークの連休で英気を養われたかと思いますので、あらためて会務の運営にしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

前回の理事会でも台風の被害等について話をさせていただきましたが、関東地方では、台風18号の影響で鬼怒川の決壊をはじめ大きな被害がありました。お見舞いを申し上げたいと思います。８月29日に宮城県で警察歯科医会全国大会があり、牛島常務理事とともに出席いたしました。その講演の中でご自分達の会館が海抜何メートルかご存じですかとの話があり、危機管理の認識について問われ、自分達の基盤である会館は大丈夫であるという過信に気を付けなければいけないと思いました。今回の関東地方の水害でも市役所が水没し、災害対策拠点としての機能が果たせないという事が現に起こりました。なお、本会館の海抜は調べてみましたら14メートルで津波の被害は無いと思われますが、川に挟まれていますので決壊となった場合の対策などをもう一度検証する必要があると思います。先生方もご自身の診療所の海抜や周辺のハザードマップの確認を是非行っていただきますようお願い申し上げます。

９月10日に日歯の方で臨時代議員会が開催され、議長に島田埼玉県歯会長、副議長に豊嶋香川県歯会長が選出され、日歯の方でも執行体制が固まりました。

役員の先生方もそろそろ慣れてきた頃とは思いますし、２年という任期は短くてあっという間に過ぎてしまいます。気を引き締めて、１日１日しっかりと会の運営に取り組んでいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

３．議長選出：浦田会長

４．議事録署名人：久々山監事、西野監事

５．平成27年度会務報告：

（自：８月24日～至：９月17日）

本会総務：理事会、常務理事会、各郡市会長・専務理事連絡会議、県警察歯科医会理事会、日本歯周病学会九州地区臨床研修会実行委員会、警察歯科医会全国大会、県・阿蘇地域総合防災訓練

社会保険：社会保険ＢｏｏＫ

地域保健：早産予防対策事業に係る啓発用ＤＶＤの作成

広　　報：テレメッセ打合せ、くまにちゆとれあ取材対応

学校歯科：日学歯臨時総会

医療対策：医療相談苦情事例報告、医療事故調査制度

センター・介護：日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

厚生・医療管理：シニア倶楽部

総務・医療連携：がん連携事業、病診連携事業

学　　院：臨床実習指導担当者研修会

国保組合：全協九州支部総会・役職員研修会

事 業 課：ケイ・デー・エム・ユー相続対策セミナー

以上、各担当役員より報告がなされた。

6．報告事項：

1．表彰
厚生労働大臣表彰　中嶋 敬介　会員（天草郡市）／表彰式…11月７日（土）於：山梨県甲府市

2．平成27年度在宅歯科診療器材整備事業に係る会員通知
９月30日を締切とした調査書を、９月７日の全会員発送時に同封した。

3．熊日新聞社からの取材依頼
「くまにちゆとれあ」（９月26日土曜発行）掲載分の取材については、広報の竹下理事が対応した。

4．平成27年度地域医療介護総合確保基金（医療分）等に対する要望
日歯が９月３日付で厚生労働大臣や財務大臣等に要望書を提出した。

5．熊本城ホール周知活動への協力依頼
熊本市からの依頼に応じて、まずは会員へ熊本城ホールのリーフレットを送付する。

6．後期高齢者歯科口腔健診
今年７月より歯周病検診のＣＰＩの判定基準が新しくなり、新基準で健診票やマニュアルを作成している。健診票やマニュアルが完成したら、各郡市に出向いて説明を行う予定である。

7．医科歯科連携訪問歯科診療用機器（高度管理医療機器）の貸与業許可申請
代表者を浦田会長、管理者を宇治理事として申請を行った。

8．第54回全日本学校歯科保健優良校の審査結果
・日本歯科医師会会長賞／熊本市立花陵中学校
・奨励賞／菊陽町立武蔵ヶ丘北小学校、熊本市立出水南小学校

9．平成27年度シニア倶楽部社会保険研修会の運営
９月26日（土）午後３時より、熊本市上通にある同仁堂ホール会議室で開催する。

10．平成27年度シニア倶楽部の運営
９月26日（土）午後５時より、熊本ホテルキャッスルで開催する。なお、開始10分前に写真撮影を行う。

11．事業企画
○リハビリテーション病院勤務歯科衛生士連絡協議会
年度１回程度開催予定で、今年度中に１回目を開催する予定である。

12．事業実施報告
○学術委員会：『デンツプライ三金㈱共催学術講演会』（８月23日）
○地域保健委員会：『各郡市地域保健担当者会』（８月29日）
○学校歯科委員会：『学校歯科医生涯研修制度基礎研修会』（８月29日）

13．会計８月末現況

14．その他
○中嶋副会長より、介護口腔ケア推進士という資格の紹介があった。

7．連絡事項：

1．歯科医療機関での院内感染対策
浦田会長より、最近、新聞や週刊誌等で報道があり問題視されているため、再度、日常の診療において院内感染対策強化の必要性について報告がなされた。

2．県健康福祉部との懇談会
８月の台風15号の影響で延期となっていた懇談会を、10月14日（水）午後７時より開催する。

3．10月行事予定
21日（水）常務理事会後に予定されていた口腔保健センター管理運営委員会を７日（水）へ変更する。なお、21日（水）常務理事会後には神奈川県歯会よりレセコン等ソフトの説明に来られるため、常務理事以上と社保委員会で対応する。

8．承認事項：

1．新入会員の承認〔承認〕
産山村歯科診療所（第４種会員／阿蘇郡市）の入会を承認した。
※27年度入会状況（９月末現在）…第１種・９名、第２種・２名、第３種・３名、第４種・１医療機関

2．関係機関・団体からの役員等の推薦依頼〔承認〕
・県医療安全推進協議会委員／県医療政策課
　渡辺 賢治　専務理事　　任期：平成27年４月１日～平成29年３月31日
3．名義後援使用依頼〔承認〕
・第63回「熊本小児保健研究会」／熊本小児保健研究会
・日本医療マネジメント学会第18回熊本支部学術集会／日本医療マネジメント学会
・第63回「手足の不自由な子どもを育てる運動」／（公社）熊本県肢体不自由児協会
・市民セミナーin熊本2015／熊本朝日放送株式会社

9．議題：

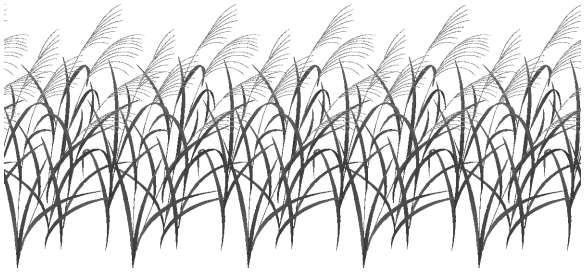
1．日本歯周病学会第７回九州地区臨床研修会の共催依頼〔承認〕
　共催および浦田会長の大会長への就任を承認した。
2．社会保険歯科診療報酬点数早見表の会員送付〔承認〕
　10月からの歯科用貴金属随時改定に伴い、10月５日の全会員発送時に点数早見表を送付するが、変更箇所が２箇所のみで日常の診療において多く算定される項目ではないことから、会員へＦＡＸでの事前通知は行わないこととした。
3．マイナンバー制度開始に伴う会員通知〔承認〕
　原案を一部手直しした上で、10月５日の全会員発送時に同封することとした。
4．第68回九州歯科医学大会厚生行事（沖縄県）に伴う部活動補助金交付申請に対する交付額〔承認〕
　参加者を基準に、野球部に20万円、剣道部に10万円、テニス部に10万円、ボウリング部に５万円、囲碁部に１万円を交付することとした。
5．くま歯キャラバン隊の各メニューの研修コードの選定〔承認〕
　原案どおり承認した。
6．第39回むし歯予防全国大会の開催期日〔承認〕
　平成28年11月５日（土）にくまもと森都心プラザで開催することを承認した。
7．一般社団法人熊本県歯科医師会口腔保健センター備品貸出要綱の一部改正（案）〔承認〕
　原案を一部修正し承認した。
8．障がい者ビジネススクールからの歯科衛生講話依頼〔承認〕
　依頼に応じることとし、県委託事業の一環として実施するか、委託事業に取り入れることが出来ない場合は学院の専任教員に対応してもらうことを検討することとした。
9．その他
○マイナンバー制度説明会の開催〔承認〕
　10月24日（土）と11月７日（土）に開催することとした。

10．協議事項：

11．監事講評：

12．閉会：宮坂副会長

（広報　竹下 憲治）



報 告

「9年間を振り返って」

― 大久保前日歯会長特別講演会 ―

9月5日(土) 午後4時より県歯会館4階ホールにて大久保満男前日歯会長・村上恵一前日歯専務理事をお招きし、特別講演会が開催された。

最初に浦田会長より、昨年からの講演依頼が念願かない実現したことへの感謝と、任期を終えられた今だからこそ語られる話を拝聴できるかも、と今日の講演会が有意義なものになるようにと開会の挨拶があった。

はじめに村上前専務理事より「中央情勢報告」の演題で講演に入った。まず日本歯科医師会の組織について139名の代議員を中心に理事や各委員会で構成されていること。日歯と他機関団体等との関係について、厚労省・文科省等の行政機関への意見交換、審議会等への参画や政府の各政務三役との協議をはじめ歯科医学会、連盟、都道府県歯科医師会等との連携などについて話された。最後に消費税問題への対応として、平成29年4月からの10%時に向けて控除対象外消費税については非課税申告還付がより適切な解決方法であると考えられ、軽減税率も考慮するなど医療界の一致団結した対応が必要であると話された。

続いて大久保前会長より「歯科医療と歯科保健の現在」の演題で講演いただいた。治す歯科医療から治し支える歯科医療へ、医療の在り方も診療所型から地域型へ、地域包括ケアシステムの体制が必要となってきている。医療連携の現在として1）メタボリックシンドローム対策　2）周術期口腔機能管理　3）在宅歯科医療の推進があげられる。なかでも周術期の口腔ケアは口腔内合併症やリスクを低減させるだけでなく術後の早い傷の回復による在院日数を大幅に減らすという大きな成果が認められた。

「歯科医療と歯科保健の現在を熱く語る」

8020達成率からみた歯科保健・医療の果たした役割は大変意義のあるものと思われる。健康長寿社会の実現に向かって歯科医療・口腔保健の意義の確立が重要であると話された。

老年機能低下症をフレイルという。そのうち、筋力や運動機能低下の前段階にあたる口周りの不調を、新しい概念としてオーラルフレイル（口腔機能の低下）と位置づけ、早期の対処や予防を提唱された。

最後に、ガリレオの言葉より「我々は前頁の言葉から深く学びつつ、次頁の白紙に自らの知と力で書き続ける努力をしなければならない」と熱いメッセージを頂き講演会は終了となった。

（広報　髙﨑 真由美）

報 告

医科歯科連携体制の向上を目指して

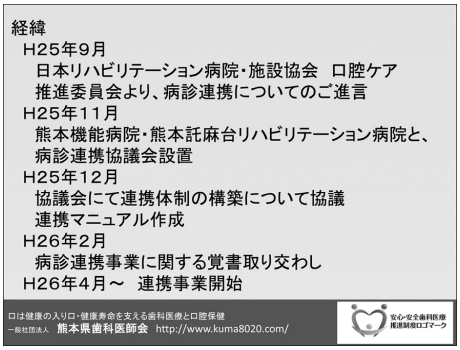
― リハビリテーション・ケア合同研究大会2015神戸 ―

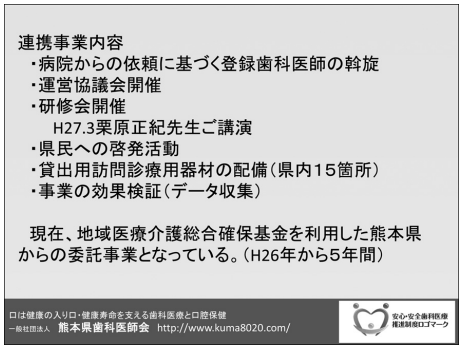
10月１日(木)～３日(土) 神戸国際会議場及び神戸国際展示場において、リハビリテーション・ケア合同研究大会が、約2500名のリハビリテーションに関連する職種が参加して行われた。大会は３日間に及び、基調講演１、特別講演12、シンポジウム12、ランチョンセミナー12、一般口演約250名と大規模な大会が開催された。その中でも摂食嚥下・口腔ケアの一般口演だけでも８会場、48名の発表があり、そこには医師、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、看護師などの参加もあった。

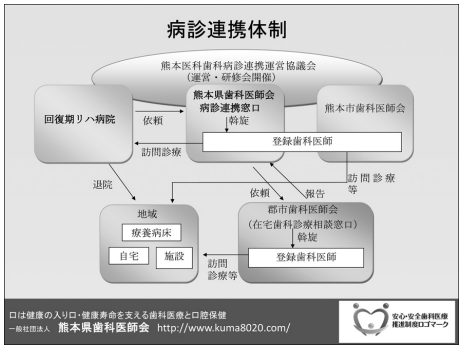
今回、日本リハビリテーション病院・施設協会より特別企画シンポジウム２「医科歯科連携構築」のシンポジストとして招待され、講演およびシンポジウムに参加した。

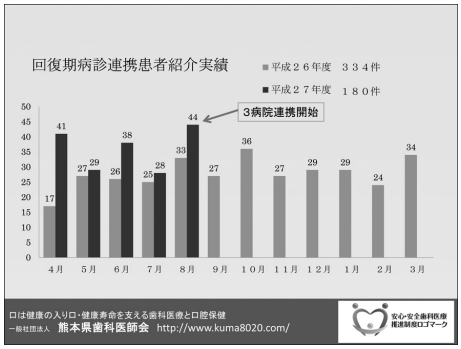
座長に日本リハビリテーション病院・施設協会の栗原正紀会長、ミナミ歯科クリニックの南清和総院長、シンポジストに博愛会病院の野田俊郎医師、福岡市歯科医師会の樋口起三歯科医師、熊本機能病院の古川由美子歯科衛生士、錦海リハビリテーションの岩田久義言語聴覚士、ワイエイオーラルヘルスセンターの足立融歯科医師と牛島が、福岡県、熊本県、鳥取県の医科歯科連携について各県のこれまでの取り組みの過程や実績、今後の課題などについて発表し、最後に全員で登壇しシンポジウムをおこなった。座長の栗原会長からは、病院に歯科衛生士を雇用する問題、歯科医師の治療技術レベルの問題、研修の必要性などを指摘され、今後の課題や宿題も頂いた。この経験を活かして、今後回復期病診連携事業にしっかりと取り組んで行きたいと思う。

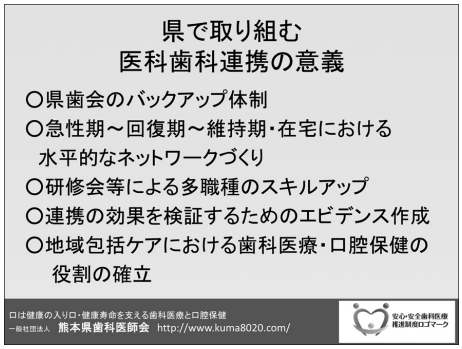
（常務理事　牛島　隆）

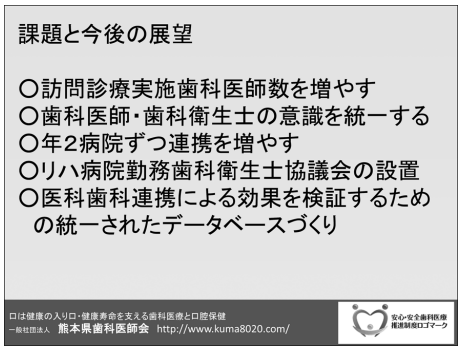







回復期病診連携患者紹介実績
■平成２６年度　３３４件
■平成２７年度　１８０件
3病院連携開始
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
ロは健康の入り口・健康寿命を支える歯科医療と口腔保健
一般社団法人 熊本県歯科医師会 http://www.kuma8020.com/
安心・安全歯科医療 推進制度ロゴマーク

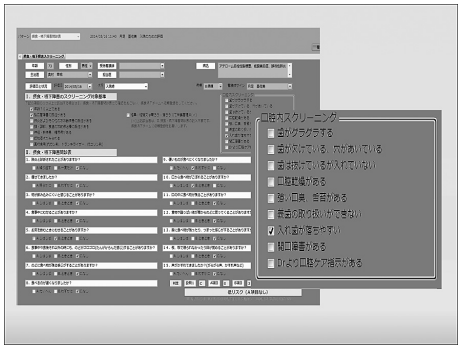

県で取り組む
医科歯科連携の意義
○県歯会のバックアップ体制
○急性期～回復期～維持期・在宅における
水平的なネットワークづくり
○研修会等による多職種のスキルアップ
○連携の効果を検証するためのエビデンス作成
○地域包括ケアにおける歯科医療・口腔保健の
役割の確立
ロは健康の入り口・健康寿命を支える歯科医療と口腔保健
一般社団法人 熊本県歯科医師会 http://www.kuma8020.com/
安心・安全歯科医療 推進制度ロゴマーク

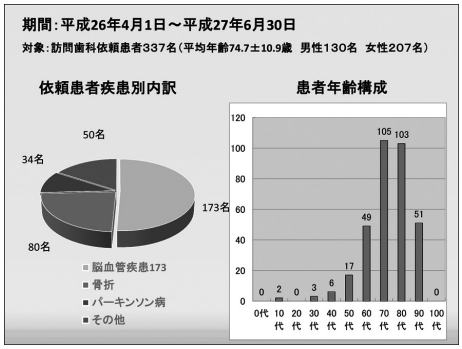

課題と今後の展望
○訪問診療実施歯科医師数を増やす
○歯科医師・歯科衛生士の意識を統一する
○年2病院ずつ連携を増やす
○リハ病院勤務歯科衛生士協議会の設置
○医科歯科連携による効果を検証するため
の統一されたデータベースづくり
ロは健康の入り口・健康寿命を支える歯科医療と口腔保健
一般社団法人 熊本県歯科医師会 http://www.kuma8020.com/
安心・安全歯科医療 推進制度ロゴマーク

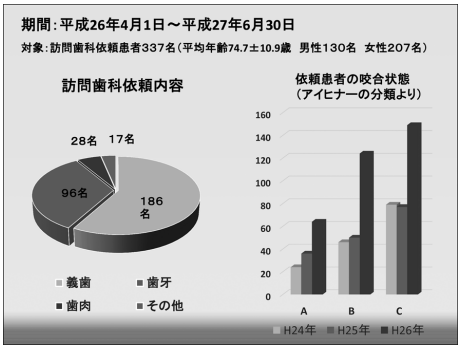
当院における医科歯科連携事業の
取り組みについて
医療法人社団寿量会 熊本機能病院
訪問歯科連携センター
古川 由美子

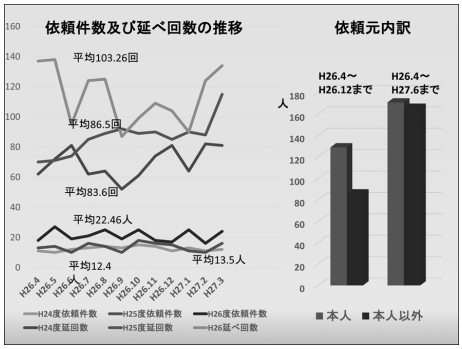
医療法人社団寿量会 北キャンパス 2009. 9（平成21年）
リハセンター
地域ケア支援センター
介護老人保健施設
清雅苑（入所80・通所140）
地域交流館
熊本機能病院
熊本健康・体力づくりセンター

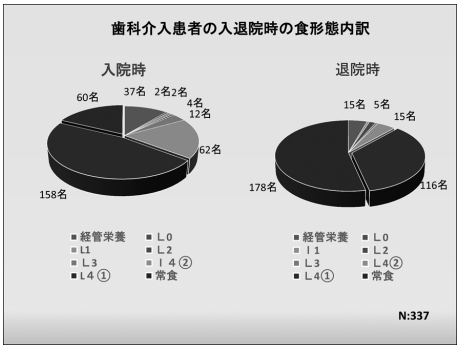
訪問歯科連携センター

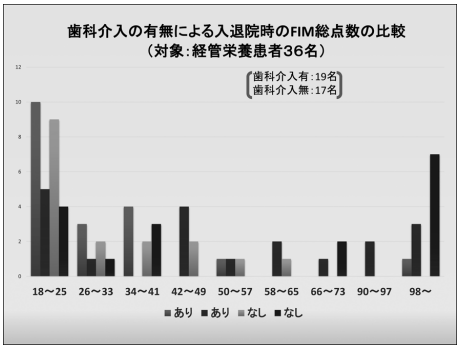

口腔スクリーニング
歯がグラグラする
歯が欠けている、穴があいている
歯が抜けているが入れていない
口腔乾燥がある
強い口臭、舌苔がある
歯の取り扱いができない
入れ歯が落ちやすい
粘口蓋がある
Dr.より口腔ケア指示がある

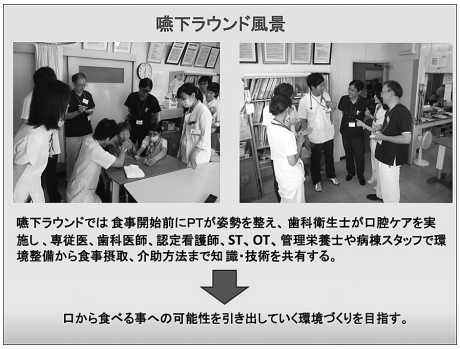

期間：平成26年4月1日～平成27年6月30日
対象：訪問歯科依頼患者337名（平均年齢74.7±10.9歳 男性130名 女性207名）
依頼患者疾患別内訳
50名
34名
173名
80名
脳血管疾患173
骨折
パーキンソン病
その他
患者年齢構成
0代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代 100代

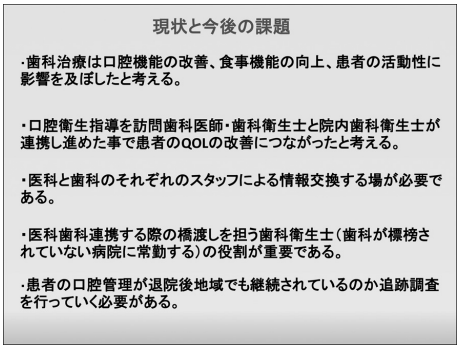

期間：平成26年4月1日～平成27年6月30日
対象：訪問歯科依頼患者337名（平均年齢74.7±10.9歳 男性130名 女性207名）
訪問歯科依頼内容
28名
17名
96名
186名
義歯
歯牙
歯肉
その他
依頼患者の咬合状態
（アイヒナーの分類より）
A
B
C
H24年
H25年
H26年


依頼件数及び延べ回数の推移
平均103.26回
平均86.5回
平均83.6回
平均22.46人
平均12.4
平均13.5人
H24度依頼件数
H25度依頼件数
H26度依頼件数
H24度延回数
H25度延回数
H26延べ回数
依頼元内訳
H26.4～H26.12まで
H26.4～H27.6まで
人
本人
本人以外









リハビリテーション・ケア合同研究大会に参加して

── 牛島歯科医院　歯科衛生士　木下　季里 ──

10月１日～３日に神戸で開催された、リハビリテーション・ケア合同研究大会2015に、私が勤務している牛島院長がシンポジストとして招待され、私も連携事業のなかで、訪問歯科診療を経験し、回復期における歯科の役割や摂食嚥下リハビリテーションなどに、大変興味があったので今回参加した。

大会では、熊本託麻台リハビリテーション病院の松下歯科衛生士の医科歯科連携構築について口述での発表、牛島院長、熊本機能病院の古川歯科衛生士らによる医科歯科連携拠点構築についてのシンポジウムなどがあった。

松下歯科衛生士の発表は、登録歯科医院による訪問診療の託麻台病院でのシステムの紹介と経過についての報告であった。託麻台病院には、私も訪問歯科診療に伺っているが、患者さんの義歯調整など、口腔機能が改善することにより嚥下機能が回復し患者様が元気になられるのを実際に拝見し、改めて医科歯科連携の重要性を感じていた。

牛島院長、古川歯科衛生士らのシンポジウムは、福岡県、鳥取県、熊本県における連携拠点づくりの状況についての報告、それぞれの工夫や見えてきた課題についてだった。３県それぞれで連携のやり方や進み方は違ったが、鳥取県では、歯科衛生士による看護師への口腔ケアの指導により院内の口腔衛生が向上した。それぞれの県で連携の中での歯科衛生士の活躍も知ることができとても刺激を受けた。

その他にも様々な発表などがあったが私は今回、摂食嚥下、口腔ケア、医科歯科連携などの発表を主に聞かせて頂いた。

訪問歯科に伺う中で、様々な職種の方と関わることが増えてきた。しかし、口腔機能に関することに、それぞれの職種がどのように携わっているかはあまり知らなかった。今回この大会に参加して様々な職種の方の視点からの口腔機能への関わり方も分かることができ本当に良かった。

そして、医科歯科連携の課題でもある退院後の患者さんへの継続したケアでは、それをスムーズに行うためにも歯科衛生士が患者さんの身体の状態をしっかりと把握し、歯科医師、在宅での新たな連携の架橋となる為に、学ばなければと強く思った。そのためにも、シンポジウムの中で栗原会長が話されたように、歯科衛生士が全身疾患や嚥下についての知識、また様々な技術を身に付けることが重要で、そして医科歯科連携チームの一員だという責任感が必要だと感じた。

今回この大会で感じたことを、今後の訪問歯科で活かしていきたいと思う。

委員会報告

元気はつらつ！シニア倶楽部

―社会保険研修会・懇親会 ―

厚生・医療管理

「参加者で記念撮影」

9月26日（土）午後5時より、熊本ホテルキャッスルにて、26名の参加のもとシニア倶楽部が開催された。懇親会に先立ち、午後3時より同仁堂ホールにて社会保険研修会が行われた。

当日は、朝から晴天に恵まれ、今年の短い夏とは裏腹に、厳しい残暑であった。

研修後は、徒歩で蒸し暑い中心街の中を汗を拭きながら、熊本ホテルキャッスルに移動した。集合写真の撮影後、宮井理事の司会進行のもと、中嶋副会長からの開会の挨拶で懇親会が始まった。まず浦田会長より、小島副会長と共に数年後にはシニア倶楽部の会員になるとの挨拶があった。引き続きシニア倶楽部代表として椿幸雄会員（熊本市）から挨拶があり、その後、鈴木勝志会員（熊本市）の乾杯の発声により開宴となった。

歓談後、寿賀会員3名（喜寿：椿幸雄会員、鈴木勝志会員、古希：松本晋一会員）へ浦田会長より記念品の贈呈があった。（今回寿賀会員に該当された会員は別表により紹介する）続いて松本晋一会員より寿賀会員代表挨拶が行われた。

また、松本会員の希望により一井正典先生の功績についての報告があった。一井先生は人吉市出身で明治18年に渡米され、米国歯科医療との懸け橋となられた方である。

その後、会場内はお酒の量と共に歓談で盛り上がっていった。今年は初の企画として、余興のクイズ大会が行われた。全部で16問。正解の会員には、ご当地カレーが景品として贈られた。おかしく笑いながらのクイズ大会は、とても和やかで楽しいものとなった。

小島副会長の万歳三唱後、宮坂副会長の閉会の挨拶をもって、本年度のシニア倶楽部は閉会した。　（厚生・医療管理　工藤 智明）

（寿賀会員）

郡市名	氏名	寿賀	郡市名	氏名	寿賀
熊本市	川嵜　正	卒寿	熊本市	濱坂浩一郎	喜寿
上益城郡	四宮　藤雄	卒寿	熊本市	椿　幸雄	喜寿
人吉市	花田　桂助	米寿	阿蘇郡市	井村　尚徳	喜寿
山鹿市	三村　保	傘寿	熊本市	田中　聖一	古希
上益城郡	田中　穣	傘寿	人吉市	松本　晉一	古希
熊本市	齊藤　健	傘寿	八代	原田　栽志	古希
熊本市	本田　亘	喜寿	八代	若槻　正幸	古希
熊本市	鈴木　勝志	喜寿	熊本市	松本　一之	古希

委員会報告

「広報紙、ホームページの編集及び活用法について意見交換」

― 九州各県広報担当者会議 ―

広報

10月３日（土）午後２時よりホテルレクストン鹿児島において九州各県広報担当者会議が開催され、本県より竹下理事、岩崎委員長の２名が出席した。鹿児島県歯西副会長の開会の辞の後、鹿児島県歯森原会長、続いて日歯中西理事より挨拶があった。座長に鹿児島県歯要理事、副座長に熊本県歯竹下理事が選出された後に日歯中西理事より日歯報告があった。

協議

⑴　平成27年度各県広報関係事業計画及び予算について

⑵　各県提出議題

１、フッ化物洗口推進についてのＴＶ利用

ＣＭをＴＶ放送したのは佐賀県と熊本県だけであった。福岡県はスライド、沖縄県は保健指導教材ＣＤを作成し啓蒙に取り組んでいる。

２、マスコミへのアプローチ

福岡県は「いいな、いい歯。」週間に合わせＣＭ放送やローカル番組出演。佐賀県は報道機関との意見交換会。長崎県はＮＨＫ長崎放送のニュース番組や民放番組への出演。沖縄県は新聞にコラム掲載。鹿児島県はプレスセミナーの開催、歯科学院専門学校の学生募集ＣＭ放送、ラジオでのＣＭ放送、南日本新聞にコラム掲載など。

積極的なマスコミへのアプローチはしていないと回答した県がほとんどであったが、定期的な報道関係者との交流は重要であるとの認識であった。

３、広報紙関連

校正作業の煩雑さは広報に携わる者にとってやはり共通の悩みであるらしく、他県の校正のやり方に皆興味津々聞き入っていた。結局、広報委員と事務局、印刷会社との密な連携と役割分担が効率化の鍵ではないか。メールによる自宅での校正で時間短縮を図るのも良。

その他、会誌を読んでもらうための工夫を各県紹介してもらうが、その中でも大分県のフルカラーの会誌は美しく読み易い事

に衝撃を受けた。予算の関係上難しいとは思うが将来の選択肢として考慮したい。

４、ダウンロードコンテンツ

各県口腔内の健康に関する様々なコンテンツが見受けられたが、一般県民が会誌をダウンロード出来るのは本県だけであった。

５、紙媒体での情報発信

近年、紙媒体での情報発信は減少傾向ではあるがネット環境が無い会員もおり完全に廃止することは難しい。本県では従来の月２回の発送から月１回の発送に変更し紙媒体の量自体大幅に減少したが、情報を確実に伝えるという本来の目的を鑑みると、これ以上減らすことは困難であると言わざるを得ない。他県も紙媒体を減らす努力はしているが混乱が起こらないよう様子を見ていくと回答した県が多かった。

⑶　日歯への要望及び質問

歯科医師によるグループであることで知られる「GReeeeN」が作ったキャンペーンソング「♪ユメノート」の利用制限を緩和することは可能か。日歯のホームページ上でしか試聴できない現状ではキャンペーンソングとしての役割を果たしていないのではないか。

（回答）
「♪ユメノート」は２年間、日歯ＨＰのみで試聴できる契約になっており自由に利用することはできない。しかし各県HPに関連のリンクを貼ることができないか等、最大限の活用方法を模索し後日報告する。
協議終了後、次期開催県である熊本県歯竹下理事による挨拶があり、続いて鹿児島県歯伊地知専務理事の閉会の辞で会議は終了した。３時間弱の会議であったが自県の広報活動をより良くするために熱がこもった活発な意見交換が行われた。１年に１度こうして各県情報交換することはお互いの刺激にもなりモチベーションも高まる。１年後の再会を約束し散会した。

（広報　岩崎　晃司）

委員会報告

九州各県で差がある厚生事業

― 九州各県厚生担当者会 ―

厚生・医療管理

10月３日（土）佐賀県歯科医師会館にて九州各県厚生担当者会が開催された。
本県からは、牛島常務理事と小林が会議に出席した。佐賀県歯前田常務理事の挨拶にて開会し、その後、日歯今里常務理事より現在報道されている献金問題の件も含めて、日歯報告がなされた。
続いて、各県から提出された６つの協議題についての各県の報告がなされた。協議題①は大分県と鹿児島県から提出された「共済制度の展望と見直しについて」で、現在は問題ないが、将来的には、給付内容の見直しが必要な県がほとんどであった。長崎県は平成28年３月から福祉共済制度を廃止するとのことだった。
協議題②は大分県と宮崎県から提出された「終身会員の要件変更について」で、新入会員数のシミュレーションをすると、将来的に終身会員の年齢の引き上げ等が必要になるとの意見がほとんどであった。
協議題③は本県から提出した「年金等に関する会員への案内について」で、入会時に案内し、たまに会報で案内する程度の県がほとんどであった。
協議題④も本県から提出した「代診派遣制度について」で、必要性はあると感じているものの、トラブルになる可能性があるからという理由で実施していない県がほとんどで、代診派遣制度がある県は少なかった。
協議題⑤は鹿児島県から提出された「会館建設の負担金について」で、入会時に徴収する県や毎月徴収している県等まちまちであった。

本県は平成18年に新築した事例を報告した。
協議題⑥は大分県と佐賀県から提出された「職員の人事考課について」で、まずは日歯今里常務理事より年次評価制度実施要領について説明がなされた。各県に参考にされる為、非常に緻密に職員の能力を評価するシステムの報告があった。その後、宮崎県歯黒木常務理事より、宮崎県の人事考課の取りくみについて報告がなされた。こちらも、コンサルタント会社に依頼して決められた、緻密に職員の能力を評価するシステムであった。
来年の担当者会は長崎県主催で「女性会員の獲得について」をメインテーマに実施される予定である。
最後に佐賀県歯前田常務理事の挨拶にて閉会した。今回初めて担当者会に参加したが、九州各県厚生担当者は、どの県も新入会員の獲得に苦慮し、共済制度に頭を悩ませている。また、厚生事業の実施は各県の事情があり、思ったよりも県によって差があると思った。

（厚生・医療管理　小林 聡）

委員会報告

様々な議題に議論白熱

― 九州各県医療管理担当者会 ―

厚生・医療管理

10月３日(土)、九州各県医療管理担当者会が、福岡県歯科医師会担当のもと、福岡県歯科医師会館にて開催された。

福岡県歯長谷会長、日歯柴田副会長がそれぞれ挨拶に立たれた。

日歯報告では、今回の日歯連盟の経緯について説明があった。その後、歯科衛生士復職支援対策、消費税10%引き上げ時の税制に対する日歯の見解、医療事故調査制度に対する日歯の取り組みについての説明等があった。

その後、各県の提出協議題に対する意見交換を行った。協議題としては

１）マイナンバー制度に関する会員への周知、講習会の開催状況（佐賀）
２）タービン滅菌問題におけるその後の状況（佐賀）
３）医療事故調査制度に対する各県の対応（長崎）
４）各県が主催する医療管理の講習会等（大分）
５）労務関係のトラブル（大分）
６）ＨＩＶ感染者歯科診療ネットワークの現状（宮崎）
７）保健所の立ち入り検査（宮崎）
８）終身資格のない会員廃業に伴う会費減免措置（鹿児島県）
９）医院承継に対する各県の取り組み（沖縄）
10）大規模災害時の歯科医師会及び専門学校などの備蓄品（沖縄）

が提出され、本県からは

11）MERSや新型インフルエンザ等の院内感染の防止
12）マイカー通勤者に対する任意保険の徹底

の２議題を提出。協議題提出の理由、当県の現状について説明し、各県の意見を求めた。

各県の提出協議題に対する意見交換が行われた

各県の関心は特に労務問題に対して高く、本県や大分県の協議題に対し、活発な議論がなされた。大分県では特定の人物が、従業員として勤務するたびに歯科医院側と労務問題を引き起こし、慰謝料を要求する事例が報告された。

日歯への要望及び質問では、消費税10%となった場合の医療機関の税金問題、マイナンバー制度、医療連携への日歯の取り組み等への質問が出され、本県からは

１）歯科衛生士等の年金制度と雇用問題
２）セーフティネット保証５号に係る経営状況調査依頼

の要望を提出した。

その他、インターネット回線を利用したＴＶ研修会、ＴＶ会議の方法やあり方について議論となった。

会議は午後２時から３時間半にわたり、５時半に無事終了した。

それから場所を変えて午後６時より懇親会が催されたが、白熱した議論は、懇親会でも引き続き戦わされた。

九州各県から集まった担当者の歯科に対する熱い思いを十分感じられ、また各県との連携を深めることができた有意義な会議であった。

（厚生・医療管理　宮井 祐）

事業課報告

「歯科医師のための相続対策のポイント」

― ケイ・デー・エム・ユー　相続対策セミナー ―

9月12日（土）午後4時より、県歯会館3F研修室にて、東京海上日動および東京海上日動あんしん生命との共催で、ケイ・デー・エム・ユー　相続対策セミナー「歯科医師のための相続対策のポイント」が行われた。

まずはじめに、東京海上日動あんしん生命保険株式会社福岡支社の古賀支社長により相続対策のポイントについて話しをいただいた。平成27年1月に相続税の改正が行われ、基礎控除額がこれまで5,000万円＋法定相続人数×1,000万円だったものが、3,000万円＋法定相続人数×600万円となり、これまで以上に課税対象者が増えたことで、縁遠いものと思われていたものが、比較的身近な問題となっている。相続税は自宅や診療所の土地と建物、現預金、死亡保険金、死亡退職金、診療機器、有価証券といったものが対象となるために、例えば、相続人が配偶者と子2人の場合であれば、4,800万円以上の遺産があれば、課税対象となり、その対策を講じることが大切となる。相続税は配偶者の税額軽減や小規模宅地の評価減などもあり、また、誰にどの遺産を相続させるか、遺産分割をどのようにすればよいか、遺産分割協議書の作り方などについて、具体的なケースをあげて説明いただいた。また対策についても、定期預金などは課税対象となるが、相続税の非課税枠を利用して生命保険にしておくことで相続税が軽減されることや、生存贈与についてのやり方などについてもわかりやすく説明していただいた。

次に東京海上日動あんしん生命保険株式会社福岡支社の北村エキスパートライフパートナーにより、モデルケースで考える「生命保険を活用した相続対策」についてお話いただいた。ここでは実際の福岡県の歯科医師家族にかかわられた事例をあげて、長男がクリニックを継承するにあたり、遺産分与を法定相続どおりにするよりも、全体のバランスをみて、生命保険を活用した対策を行うことによって、相続税を抑え、相続人それぞれが公平に遺産を受けられるようにする方法について話していただいた。

「難しいと思われる相税や保険について学ぶ」

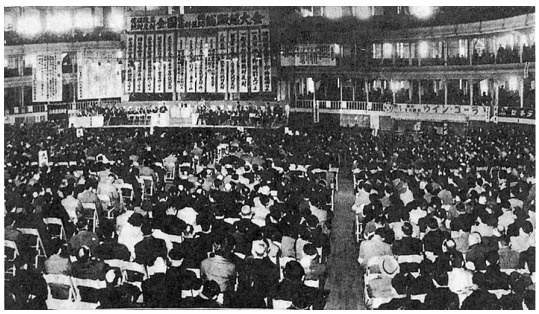
難しいと思われていた相続や保険のことについて、非常にわかりやすく説明いただき、参加者も大変多くのヒントをいただいたのではないかと思われる。“知っている”ことで得をする、大変良いセミナーを提供いただいた東京海上日動、あんしん生命の皆様に感謝申し上げたい。

（常務理事　牛島 隆）

航跡　～熊本県歯科医師会の歩み　その８（昭和期４）～

第２章　歯科医療界の変遷
第６節　戦後の歯科界（昭和31年～40年）
⑴　日本歯科医師会では
【新医療費体系導入との戦い】

厚生省では昭和31年４月に実施される医薬分業にさきがけて、再度新医療費体系を発表したが、「物の対価と技術料を分離する」という根本原則にはほど遠く、特に歯科において技術料算定の基礎の不明確さや、単価の放置など不合理なところが多いため反対の声が上がった。全国各地で行われた決起大会に続き昭和31年２月、東京神田共立講堂に5,800人の参加のもと「健保改悪、新医療費体系反対」の全国歯科医師総決起大会を開催した。これらの行動により一度は棚上げになるが、再度健保改正案が上程されたため、全国医師・歯科医師総決起大会を東京両国スタジアムで約２万人の参加のもと開催したが、昭和32年３月可決されるに至った。



〈全国医師・歯科医師総決起大会〉

この改正により、健康保険の医療担当は保険医と保険医療機関の二重指定制となり、昭和33年10月からの点数表は甲表・乙表の２本立てとなり、日歯では甲表を採用することになった。しかし、昭和34年１月１日より実施される事になったが、政令などの未整備のため実施される所は少なかった。

昭和36年４月より発足する「国民皆保険」を前に医療費の引き上げ、制限診療の撤廃、地域格差の撤廃を求め、日医と日歯は２月19日、全国一斉に一日休診を決行し、２月20日に医療保険改革全国歯科医師総決起大会を開き、保険医総辞退を決議し、３月１日より保険医総辞退に突入することになった。しかし、自民党三役との会談で一応の妥結をみたため、一時総辞退を中断することとなった。しかしその後医療費問題は再燃し、日歯は８月１日より保険医総辞退を決行する旨を全国に宣言したが、７月31日河村弘日歯会長、武見太郎日医会長、田中角栄自民党政調会長、灘尾弘吉厚生大臣の四氏が医療四原則の合議書を取り交わし総辞退問題は回避された。この時代、武見日医会長の存在は政府、日医、日歯にとって大変大きな影響力を持っていた。

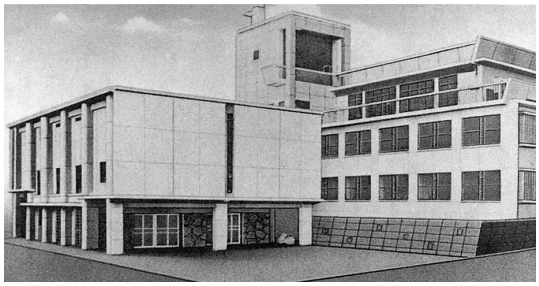
〈医療保険改革全国歯科医師総決起大会〉

昭和38年２月、三師会主催の「国民健康保険強化・医療経済体系確立推進大会」を東京神田の共立講堂で、全国から三師会会員3,000名が参加し開催した。

昭和30年代の医療界は、国民皆保険制度、社会保険、税制など新しい仕組みづくりに対し、日本歯科医師会、日本医師会、日本薬剤師会の共闘体制が組まれ、全国一斉休診や保険医総辞退など激しい運動が展開された。

【歯科医師会館の竣工】

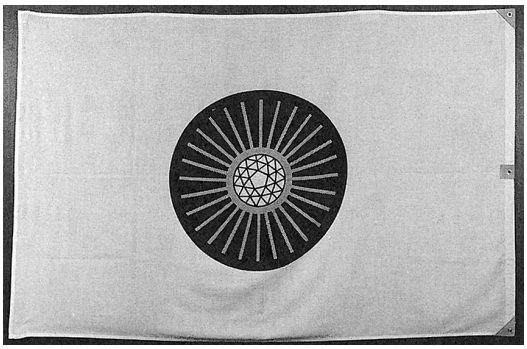
昭和33年１月東京都歯科医師会と合同で建設中であった日本歯科医師会館が千代田区九段四丁目（それ以前は東京理科大学所有地）に竣工した。



〈完成した日本歯科医師会館〉

【会旗、記章、会歌】

昭和38年10月、日本歯科医師会創立六十周年記念式典が大阪市のフェスティバルホールで行われ、会旗、会員記章、会の歌が披露された。



〈会旗：中心のサファイヤは当時の都道府県歯科医師会の数の46面にカット、サファイヤを囲む円は日本歯科医師会の「日」を、金色の放射線28本は歯の数を表象〉

【口腔衛生普及啓発活動】

6月4日からの1週間を口腔衛生週間の名称で実施していたが、発音が「航空」とまぎらわしいとの声や、キャンペーンとしては分かりやすい言葉の方が良い等の意見があり、昭和33年より「歯の衛生週間」として実施することとなった。（この名称は平成24年まで続く）内容も母と子のよい歯のコンクール、ほほえむ写真コンクール、歯の女王コンクール（昭和31年～35年）、口腔衛生読本の出版、スライド作成・移動展示パネルの作成全国配布、ＮＨＫとの歯科健康診査、全国小学校口腔衛生図画コンクール（昭和36年～）、よい歯の幼稚園表彰（昭和37年～）患者教育用パンフレット作成、口腔衛生普及映画作成、協賛ラリーなど様々な事業が展開された。また、昭和33年には学校保健法が公布され、学校歯科医が必置となり歯科健診のみならず健康教育に携わる学校歯科医の役割が示された。これにより学校における歯科保健活動が全国的に広がって行った。

⑵　**熊本県歯科医師会では**

【新医療費体系導入との戦い】

昭和31年2月、県医師会、県歯科医師会共催のもとに熊本市公会堂で「健康保険改悪反対大会」を開催した。早朝より宣伝カー2台に分乗した関係者が市内を回り市民への啓発活動も行われ、午後1時の開会には満員の盛況を呈した。このような医師・歯科医師の全国的な反対運動により、健保改正案は廃案となった。しかし、昭和32年ふたたび健保改正案が上程されたため、2月20日大洋デパート文化ホールで医師会・歯科医師会連合大会を開き、健保改正案にあくまで反対した。更に昭和36年2月熊本市紺屋町朝日生命ホールに於いて、「医療危機突破熊本県歯科医師大会」が開催された。各支部からバスを連ねて県下全会員が参集し、要求貫徹に一致団結し、火の玉となり闘い抜く堅い決意と報道記者連のフラッシュの閃光も色彩を添えて、大会気運はいやがうえにも昂揚されたと記載されている。決議を行い、プラカードを掲げてデモ行進を行った。

〈医療危機突破熊本県歯科医師大会〉

【熊本県歯科医師会特別国保組合設立】

国民皆保険が実施される事になり、熊本県歯科医師会でも会員、家族、従業員の医療の確立を目指して健康保険制度の導入を考え、昭和32年11月7日、熊本県歯科医師会特別健康保険組合設立発起人会が開かれ、代議員会・総会の承認を経て、昭和33年3月31日熊本県知事より設立が認可された。翌4月1日より組合員299名、家族1,110名、従業員109名の計1,518名の被保険者で事業を開始することになった。初年度の予算は僅か313万円でのスタートであった。

【福祉共済制度発足】

会員の福祉については昭和31年10月より、日歯に福祉共済部が設立され、1人拠出金月

額400円で、死亡や家屋全焼に対しては50万円が支払われることになった。県歯会でも昭和35年４月の総会で県歯独自の共済金を発足させ会員福祉の充実を図ることが決められた。

【九州地区歯科医学大会】

昭和34年10月17,18日の両日、第12回九州地区歯科医学大会が大洋文化ホールに於いて九州各県より2,000名に余る参加のもと盛会に開催された。講演会、レクレーション、サービス抽選会、趣味展（洋画、写真、俳句）器材展示などが行われた。

〈九州歯科大学口腔外科平川正輝教授の宿題報告　歯科外科的小手術の再検討特に「局所自家歯槽骨移植」の応用〉

〈小型エアータービンミゼット30万回転〉

【剣道部全国大会優勝】

昭和34年５月16日大分県警察会館道場に於いて、第４回全日本歯科医師剣道大会が開催された。団体戦メンバーは松田正忠、西田健吉、上田義信、鬼塚義行、林田充成の５氏。その時の実況報告「先ず第１戦対するは前年優勝チームの兵庫県、先鋒林田かるく二本打に敵先鋒をほうむれば、あとは無人の野を行くが如くして、大将松田を待たずして戦い決す。第１回、第２回大会連続優勝の大阪チームも我が堅塁抜きあたわず我が軍門に下る。同九州勢の大分県には少々手をやき、副将まで五分の星なるも、大将松田よく戦い５対４で我に凱歌上がる、神戸組も４対１と大きく引き離して、第１回出場にして早くも優勝の大旗が我が頭上に輝いたのでした。」なお、前年長崎で開催された九州歯科医学大会厚生行事でも県歯剣友会は優勝しており、まさに最強の黄金時代であった。この時は師井淳吾先生も出場されている。

〈昭和34年　熊歯剣道部全国制覇〉

【熊本八代定期野球10周年記念戦】

昭和36年８月27日八代電波高球場に於いて第10回熊本八代の野球定期戦が開催された。

結果は６対４で八代歯科医師会の勝利。その時の実況報告「試合はユニフォームを新調して張り切っている八代軍が、上田監督をはじめとする坂井、福田、沢田君らベンチのヤジ将軍連の声援に応えて、熊本市を主軸とする全熊軍を見事打ち破った。八代の勝因は吉田、宮本弟－上田のバッテリーの好調と、１回満塁に放った森山君の好打、宮本兄弟の好守。熊本軍は技術的には上回っていたが、敗因は手薄な人員。しかし、老雄五島君の好打力走、川崎君の左超大飛球を捕らえた美技、八代軍より移籍した沢田君の好守、好打は光っていた。かくて優勝杯は再び八代へ還った。九州大会も目前である、熊本県歯野球部のご健闘を祈る。（永松記）」和気あいあいと野球を楽しむ先生方の姿が目に浮かぶ。

〈写真は昭和26年の第１回親善野球大会、於八代市太田郷小学校、八代・人吉混成チーム対熊本市チーム、結果６：13で熊本市勝利〉

【会館建設】

会員待望の新歯科医師会館は昭和38年10月起工式を行い７ヵ月後に竣工、39年５月には３階大ホールで各界来賓多数参加のもと盛大に落成式が行われた。現在の歯科衛生士学院がある熊本市坪井２丁目（当時は北坪井町と言った）の土地を石田印刷から178坪470万円で購入、３階鉄筋コンクリート（建坪200坪）3,386万円で西松建設が建設した。その後隣接地を次第に買い増し増築388坪の保有となった。各種会議、会員研修や県民保健の場として利用されることとなった。

また、新築なった会館内には要望の高かった歯科衛生士養成施設として熊本歯科衛生士学院が設置され、同年５月第１回の入学式が挙行され、20名が入学することとなった。修業年限は１ヶ年、学科目総時間数1,100時間以上の単位を取らなければ卒業することはできず国家試験を受ける資格はないとされた。１年間でマスターすべき科目は膨大で生徒の負担、講師の苦労も大変なものであったろう。

〈昭和36年10月6日熊本県歯科医師会館建設起工式〉

〈完成した新会館〉

【へん地学校巡回歯科診療】

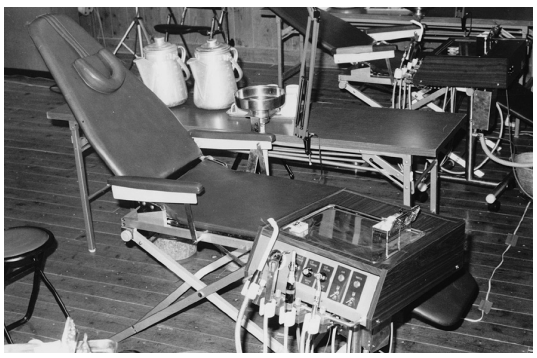
無歯科医地区の児童生徒の歯科診療は「むし歯半減運動」の実現に大きな障壁となっており、その解消策としてへん地学校巡回歯科診療を行うことになり、熊本県歯科医師会巡回診療班が組織され、昭和38年７月より診療が開始された。国保利用のへん地児童の校内集団歯科診療は熊本方式と呼ばれ、後に全国各地で実施されるようになる優れたアイデアであった。へん地学校に診療所を開設、保険医療機関の指定を受け保険診療体系の中で行われる医療行為で歯科医院の出張所のようなものである。管理者としては実施学校担当の学校歯科医もしくは郡市学校歯科医会長とさ

れ、治療内容は①初期のう歯（Ｃ１～Ｃ２）→アマルガム充填②要抜歯乳歯→抜歯に限定で、ア充研磨のため２日間の設営となっていた。昭和48年からは治療費の一部負担金の１／２を県費で負担し、残りの１／２を自己負担として学校で徴収された。また同年、文部省による歯科ユニット３セット購入費300万円の補助金も実現した。実働歯科医師への診療報酬の配分は、事務費１割引きの上、按分とされた。

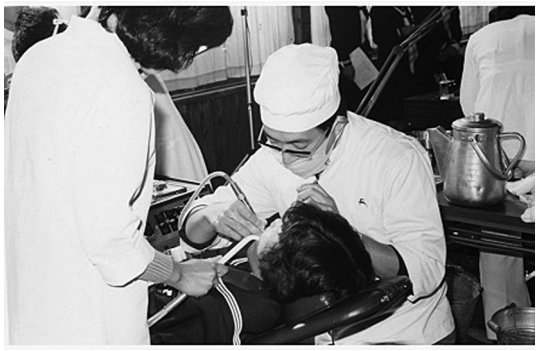
昭和39年からは熊本県教育委員会の事業として昭和44年まで続けられ、２年間中断されたが昭和47年から再開し平成６年まで実施された。また、平成7年から12年までは巡回歯科保健指導が実施され、その役目を終えた。

〈昭和49年球磨郡山江中学校〉

〈歯科衛生士による歯科保健指導〉



〈熊本県で開発された窪山式巡回歯科診療器械〉



〈昭和60年上益城七滝小学校〉

〈平成５年芦北郡赤崎小学校〉

【口腔衛生普及啓発活動】

口腔衛生啓発は歯の衛生週間の行事を強力に推進すると同時に、期間中に熊本県口腔衛生大会（現在の歯の祭典）を開き、母と子の良い歯のコンクールと同じく独自にマザーティースの選出や、口腔衛生の歌などを募集し、口腔衛生への関心を高める運動がなされた。また、むし歯半減運動５ヶ年計画の推進が積極的に行われ、学童歯磨き巡回指導ならびに映画会が、八代、水俣、阿蘇、天草で開催され、熊本市内各所においては「童話と正しい歯みがき」巡回指導が実施された。さらに、へん地学校巡回歯科診療という熊本県独自の歯科保健、医療活動へと発展していった。そして八代歯科医師会においては、昭和36年に文部大臣賞、昭和38年には奥村賞（学校歯科の父と仰がれる故奥村鶴吉先生の偉業を偲ぶ奥村賞は毎年１件に対し贈られるもので学校歯科界最高の栄冠）が贈られた。

（専務理事　渡辺賢治）

参考文献：「日本歯科医師会史」、「熊本県歯科医師会史」

郡市会報告

天草郡市歯科医師会

「切実な問題である痛みの治療」

― 三師会学術研究会 ―

8月29日（土）午後4時30分より第6回天草郡市三師会学術研究会が天草市の天草地域医療センター「ヒポクラート」で行われた。

この学術研究会は『医歯薬の三師会の連携を密にし、それぞれに関係がある項目の勉強会を一緒に行う』という趣旨で計画された研究会である。6回目の今年は「痛みの治療～急性期から慢性期まで～」というテーマで学術講演が行われた。

第1講演に歯科領域より「口腔顎顔面領域の疼痛の診断と治療」の演題で熊大の篠原正徳名誉教授に講演を頂いた。第2講演に「運動器疾患に対する慢性疼痛治療」の演題で熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学分野の藤本徹講師に講演を頂いた。

今回のテーマである「痛みの治療」は我々開業歯科医には切実な問題であるが、原因や部位を限定しない『痛み』をテーマにした講演は今まで経験になかったと思う。講師である篠原氏からも「痛みがテーマで頭が痛かった」のジョークがあったが、本音からと思われた。

第1講演では口腔顎顔面領域の疼痛のなかでも歯原性歯痛以外の非歯原性歯痛、その他の口腔顔面痛をメインに講演された。

「痛みをテーマに講演する」

疼痛は患者が医療機関を受診する大きな理由の一つであり、主訴の疼痛を改善出来るかどうかは、信頼と評判にも関わってくる。

時に我々の臨床のなかでも疼痛の主訴の部位に原因となる病変を認めずに治療に苦慮する症例があるが、それに対する考え方を新たにする講演内容であり、いろいろな知見と各種症例を提示しつつ、今までに聴講したことがない講演であった。

第2講演では整形外科領域の疼痛について詳しい講演を受けた、こちらも興味をそそる内容であった。　　（天草郡市　内崎 祐一）

「歯牙供養祭に向けて」

― 歯恩の碑清掃 ―

9月26日（土）午後3時に本渡南公園にて、毎年恒例の歯恩の碑の清掃作業が行われた。当日は日差しが強い中7人の会員に、診療後のお疲れのところ、清掃に参加して頂いた。例年同様、石碑の周りの木の葉を均等に切り揃え、枝も何本か間引きし、すっきりした。ある会員が、石碑の形が人の側方の顔貌であることに気づき、皆感心した。約1時間30分の作業の後、会長からの差し入れのアイス、お茶で喉を潤し、無事1週間後の歯牙供養祭に備えることが出来た。

（天草郡市　松原 崇士）

7名の会員が参加した

天草郡市歯科医師会

『秋空の下の歯牙供養祭、厳かに。』

― 歯牙供養祭 ―

10月３日（土）午後２時より天草市本渡南公園内『歯恩の碑』前において第56回天草郡市歯科医師会歯牙供養祭が行われた。『歯恩の碑』前で行われるのは二年ぶりである。

今回は供養祭の後に行われる天草歯科学会で講演される熊大口腔外科の中山教授にも参列頂いた。

布井専務理事の開会の辞の後、山本会長の祭文奏上が行われ、「超高齢化社会を迎えるにあたり、摂食・嚥下に深く関わる我々の業務は、より一層努力しなければならない。」と述べられた。本妙寺住職の読経が流れる中、各会員が抜去された歯牙、あるいは日頃の歯科業務に対するそれぞれの思いを省みながら焼香を行った。

半世紀以上続いているこの行事は、先達の先生方の偉業を労うばかりでなく、己の生業を冷静に振り返る本当によい機会である。

（天草郡市　楢本 亮二郎）

上益城郡歯科医師会

「抽選会に歓喜の声」

― 家族・従業員合同レクレーション ―

８月21日（金）午後７時より、毎年恒例の家族・従業員合同レクレーションが、18医院105名の参加のもと、益城町にあるグランメッセのレストランで開催された。

玉置会長の挨拶の後、山内会員の乾杯でスタートした。暑い夏で疲れた体を癒すのに絶好の機会である。食事が進みお腹が満たされたところで、参加者全員にもれなく景品が当たる抽選会が始まった。司会の工藤会員が番号を読み上げると、歓喜の声があちらこちらからあがった。参加してくれたかわいい子供達に花火のプレゼントで抽選会は終了した。

日頃頑張ってくれているスタッフに感謝し、

「18医院105名参加して行われた」

来年も盛大に催されることを願い、宮本会員の一本締めでお開きとなった。

（上益城郡　宮本 徳郎）

阿蘇郡市歯科医師会

「隠れた疾患を見抜く」

― 学術講演会 ―

9月26日(土) 午後4時より阿蘇医療センター1階講堂にて、熊本大学大学院生命科学研究部歯科口腔外科学分野中山秀樹教授による学術講演会が開催された。今回は、阿蘇郡市医科歯科連携事業の一環として昨年から始まった医科歯科連携講演会の第二回目として、「口腔外科関連疾患の多様性と医科との連携治療について」という演題で講演が行われた。聴講者は歯科医師16名、医師5名、歯科衛生士8名、医療関係者2名の総計31名であった。

今回は臨床症例を中心に9症例を講演された。例えば舌腫瘤を前医で舌リンパ管腫と診断されたが、実際はHIV感染による口腔カポジ肉腫であった症例やNumb chin syndromeから確定診断に至った悪性度の高いバーキットリンパ腫、あるいは丹毒の症例といった日頃から目にする可能性のある疾患であったり、下顎小臼歯部に後発生した多数埋伏過剰歯や、心疾患に関する内服薬の副作用が原因であった難治性口内炎症例、下顎骨の疼痛より狭心症と診断された症例、一見不定愁訴と思われるような症状でイーグル症候群であった症例など、日頃見落としがちな症状から意外と隠れた疾患が見付かることがあり、気づくことが大切であると言う事であった。また医科歯科間で認識に相違があり、臨床の現場でも今もなお混乱が続いているBRONJの症例が供覧された。最後に阿蘇郡市で行われた口腔外科関連疾患に関するアンケート調査の結果について言及され、熊本県下での歯科口腔外科の拠点病院の空白地帯について今後の課題を講演された。講演終了後は会場を移し懇親会が開かれ、中山教授と医師も含めた参加者との親睦を深めた。

「9症例を詳しく説明する中山教授」

（阿蘇郡市　髙宗 康隆）

新入会員 NEW

①今もっとも関心のあることは何ですか。
②自分が希望する歯科診療とはどのようなものですか。
③他の歯科医院にはない自分の医院の特色を教えてください。
④今後の抱負は何ですか。

第2種会員

片山　建一
（カタヤマ　ケンイチ）

阿蘇郡高森町高森町1391-8

片山歯科医院

①阿蘇山の活動状況
②自分の家族が受けて欲しいような治療やメンテナンスが提供できること。
③父が築いてきた医科や薬科、警察等、多方面にわたる連携が強いこと。
④歯科医師である祖父、父を越えられるようがんばりたいと思います。

ニューグルメハンター

TANBOcafe

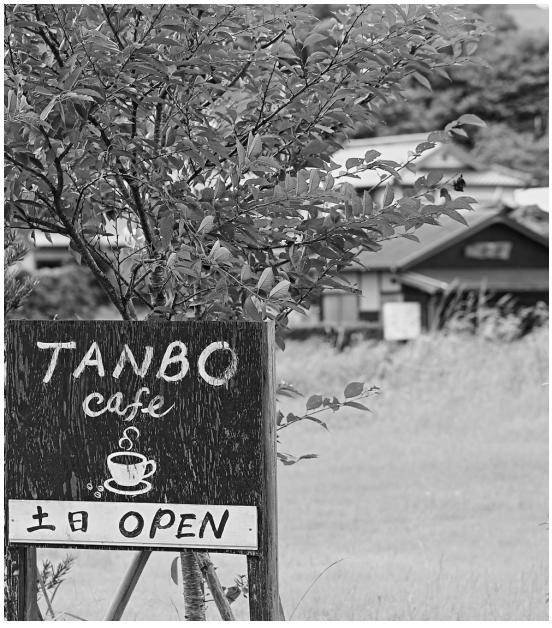
— 玉名界隈 —

自然の中の「TANBOcafe」へどうぞ！

「TANBOcafe」（店長・宮部由紀子）は、玉名市石貫の田んぼに囲まれた場所にある小さなカフェです。石貫で移住者の支援や無農薬の米・野菜作りをされている徳永さんが、ご自身の山から杉の木を切り出しハーフビルドで10年前に建てられた「庄屋」の建物をお借りして週末のみ営業しています。

運営を手伝っているスタッフは2011年の東日本大震災の後に玉名に移住し、石貫でコメ作りをしながら新たな生活を始めた「NPO法人あめのゆみ」のメンバーの有志です。

四季折々の石貫の美しい風景の中でのんびりとした時間を過ごしてもらいたい、そんな思いから週末のみのカフェを始めました。平日はそれぞれの仕事をして、週末は



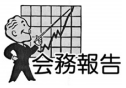
カフェに訪れた方とおしゃべりをする。どんな方が訪れて下さるかな…と、私たちも楽しみに毎週カフェを開けています。周りの風景が主役のカフェなので凝った趣向はありません。自然に寄り添って、季節の野菜や果物を取り入れたカレーやケーキや飲み物を提供しています。ハンドドリップのオーガニック珈琲は珈琲好きの方にも人気です。

オープンから３年を超え、おかげさまでご近所の方も他県の方も、赤ちゃんを連れたお母さんもお一人様も、のんびりとした時間を味わいに来て下さるようになりました。春には桜、夏は田んぼの緑、秋は紅葉を眺めながら、オープンカフェで風に吹かれ、冬は杉の木のぬくもりを感じながら暖かい室内で、四季折々の贅沢な時間を楽しんで頂けます。「玉名カントリー」のすぐそばです。ビールはありませんが、ぜひ一度お越し下さい。

H.27.11

会　務　報　告

自　平成27年８月24日
至　平成27年９月17日



所管	日付	摘要	出席
総　務	８月24日	日本歯周病学会九州地区臨床研修会第１回実行委員会 （１）プログラム（２）タイムスケジュール（３）チラシ	小島副会長、牛島常務理事
	26日	細川隆司九歯大教授来館 H28年度日本補綴学会開催	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事、牛島常務理事
		第４回理事会 【承認事項】（１）新入会員の承認（２）名義後援使用依頼（３）共催依頼 【議　　題】（１）熊本県警察歯科医会会則の一部改正（案） （２）選挙管理委員会規則と諸会議及び委員会規程の一部改正（案） （３）第21回中規模県歯科医師会連合会協議題の回答　ほか	浦田会長他全役員、伊藤学院長
	27日	九州地方社会保険医療協議会熊本部会（熊本市国際交流会館）	中嶋副会長
	28日	月次監査 ７月末会計現況監査	久々山・西野監事
		第14回警察歯科医会全国大会会長招宴（仙台市）	浦田会長
	29日	第14回警察歯科医会全国大会（ホテルメトロポリタン仙台）	浦田会長、牛島常務理事
	30日	県・阿蘇地域総合防災訓練（阿蘇市）	渡辺専務理事、伊藤学院長、田上常務理事、武藤阿蘇郡市会長他７名、宮川菊池郡市会長、神戸会員
	９月２日	第４回常務理事会 （１）新入会員の承認 （２）平成27年度「中国・四国」「九州」地区歯科医師会役員連絡協議会の提出協議題 （３）くま歯キャラバン隊の各メニューの研修コードの選定　ほか	浦田会長他常務理事以上全役員
	５日	第１回各郡市会長・専務理事連絡会議 （１）マイナンバー制度への対応（２）地域医療構想への対応	浦田会長、小島・中嶋・宮坂副会長、渡辺専務理事、八木・牛島常務理事、松本・赤尾・宇治理事
		前日歯会長大久保満男先生・前日歯専務理事村上恵一先生特別講演会 受講者：96名	浦田会長、小島・宮坂副会長、渡辺専務理事
	８日	医療法人朝日野会創立35周年記念祝賀会（ホテル日航熊本）	牛島常務理事
	９日	第21回中規模県歯科医師会連合会（アルカディア市ヶ谷）	浦田会長、小島副会長
	10日	第180回日歯臨時代議員会（日歯会館）	浦田会長、小島副会長
	11日	医療構想調査に関する打合せ	宮坂副会長、渡辺専務理事、牛島常務理事
	16日	歯科医師国民年金基金勉強会・代議員会（東京都）	牛島常務理事
		故石田龍佑会員（山鹿市）告別式弔辞奉呈（山鹿市）	浦田会長
		第５回常務理事会 （１）障がい者ビジネススクールからの歯科衛生講話依頼 （２）くまもと経済「熊本医療最前線」への広告掲載 （３）平成27年度シニア倶楽部社会保険研修会の運営　ほか	浦田会長他牛島常務理事を除く常務理事以上全役員
	17日	熊本県警察歯科医会理事会	浦田会長、小島副会長、伊藤学院長、渡辺専務理事他９名
社会保険	８月29日	社会保険個別相談会 相談者：２名	田中理事、清水委員長他９委員
		社会保険委員会 （１）支払基金における新たな決め事（２）九州各県社会保険担当者会協議題回答 （３）保険診療ハンドブック	中嶋副会長、田中・椿理事、清水委員長他全委員
	９月４日	レセプトチェックセンター（荒尾市） 相談者：２名	田中理事
	８日	国保連合会との勉強会 出席者：21名（歯科審査委員９名、連合会職員12名）	田中理事
	10日	保険個別指導（ホテル熊本テルサ）	田中理事、反後・井口委員
地域保健	８月26日	青山製作所熊本工場事業所健診 健診者数：９名	三森会員
		歯科健診市町村担当職員向け講演会（県市町村自治会館）	田上常務理事
	29日	各郡市地域保健担当者会 （１）後期高齢者歯科健診事業（２）歯と口の健康週間事業 （３）平成26年度・27年度の各郡市事業報告　ほか	宮坂副会長、渡辺専務理事、田上常務理事、赤尾理事他全委員
	９月３日	熊本さわやか大学校熊本校講演（県総合福祉センター）	大塚熊本市歯会理事
	５日	九州口腔衛生学会幹事会（長崎県歯会館）	田上常務理事
	６日	九州口腔衛生学会総会（長崎県歯会館）	田上常務理事
		地域保健小委員会 （１）早産予防対策事業に係る啓発用DVDの作成	赤尾理事、宮本副委員長
		県糖尿病対策推進会議・実務者研修会（熊大附属病院）	久木田会員
	７日	全国健康保険協会熊本支部第１回健康づくり推進協議会（熊本大学）	赤尾理事
	10日	スズキ自販熊本事業所健診（熊本市） 健診者数：36名	齊木会員
	16日	地域保健委員会 （１）後期高齢者歯科口腔健康診査（２）糖尿病・歯周病医療連携研修会　ほか	田上常務理事・赤尾理事他７委員
	17日	全国健康保険協会熊本支部との打ち合わせ（熊本市） （１）事業所におけるスモールチェンジ・生活歯援プログラム	二宮委員長

所管	日付	摘要	出席
広　報	8月27日	テレメッセ打合せ （1）11月5日（木）放送分打合せ	竹下理事
	9月9日	くまにちゆとれあ取材	竹下理事
		広報小委員会 （1）会報10月号編集・校正	竹下理事、岩崎委員長他3委員
	16日	広報小委員会 （1）会報10月号校正	竹下理事、岩崎委員長他3委員
学校歯科	8月29日	学校歯科医研修会 日本学校歯科医会「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修会 受講者：60名	宮坂副会長、渡辺専務理事、大林理事、河原委員長他全委員
	9月2日	熊本市歯会フッ化物洗口事業に関する勉強会	大林理事
	6日	県歯科衛生士会フッ化物洗口研修会（大津町生涯学習センター）	勇・上野委員
	14日	歯及び口腔の健康づくり指導（八代市役所） 八代市公立幼稚園長会	宮﨑委員
	16日	日学歯臨時総会（アルカディア市ヶ谷）	大林理事
	17日	県PTA共済審査委員会（県総合福祉センター）	西野監事
医療対策	8月28日	医療対策小委員会 （1）九州各県医療安全担当者会各県提出協議題	冨屋理事、岡田委員長他1名
	9月9日	医療相談	冨屋理事、岡田委員長他1名
	16日	医療対策委員会 （1）事例報告検討（2）九州各県医療安全担当者会（3）委員提出協議題　ほか	冨屋理事、岡田委員長他8委員
センター・介護	9月5日	センター・介護委員会 （1）平成27年度委託事業（2）障がい児（者）歯科治療等調査票	松本理事、平井委員長他6委員
	11日	第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（1日目）（国立京都国際会館）	松本理事
	12日	第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（2日目） （グランドプリンスホテル京都）	松本理事
	17日	介護支援専門員更新研修（KKRホテル熊本）	井手委員
厚生･医療管理	8月29日	水俣・芦北郡市健康診断（津奈木町つなぎ文化センター）	
	9月5日	人吉市健康診断（東西コミュニティセンター）	
	7日	熊本市・上益城郡健康診断	
	8日	熊本市・上益城郡健康診断	
	9日	熊本市・上益城郡健康診断	
	10日	熊本市・上益城郡健康診断	
総務･医療連携	8月31日	総務・医療連携委員会 （1）会員名簿作成（2）病診連携システム体系の確認 （3）訪問歯科診療依頼書の書式変更　ほか	牛島常務理事、宇治理事、三森委員長他全委員
	9月14日	病診連携打合せ	牛島常務理事
	15日	県がん診療連携協議会第25回相談支援・情報連携部会（熊本大学医学部附属病院）	牛島常務理事
	16日	県医療・保健・福祉連携学会第2回企画委員会（県医師会館）	小島副会長
学　院	9月10日	第3回学院役職員会 （1）実習診療台の購入（2）入学試験選抜（3）学校評価　ほか	伊藤学院長他全役員
	14日	学院臨床実習指導担当者研修会 出席者：実習施設指導担当者40名、実習指導補助員6名、口腔センター歯科衛生士6名 ほか	浦田会長、伊藤学院長他8役員
国保組合	8月29日	九歯連役員会（大分オアシスタワーホテル）	上野副理事長
		全協九州支部総会（大分オアシスタワーホテル）	上野副理事長、桑田常務理事他1名
		全協九州支部役職員研修会（大分オアシスタワーホテル）	上野副理事長、桑田常務理事他1名
	9月4日	全協職員研修会（東京・全国町村会館）	塩山係長
事業課	9月12日	ケイ・デー・エム・ユー相続対策セミナー 受講者：11名	牛島常務理事

会員専用グループ保険のご案内

随時加入募集中

グループ保険　Ⅰ 団体定期保険　Ⅱ 新医療保障保険団体型

Ⅰ 団体定期保険

充実した保障内容
合理的な 死亡保障 の確保に！

最高3000万円の保障（無診査）が70才まで新設されました

保険金額の増減は毎年自由に変更できます

① 割安な保険料で高額保障
災害に起因する死亡の場合は、災害保険金が上乗せされます

② 最高75歳まで継続更新可能

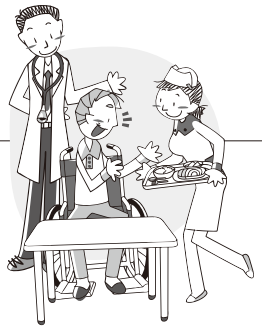
③ 障害給付金・高度障害保険金も準備されます

35年以上の長期にわたり、熊本県歯科医師会で会員のために継続している福利厚生制度です。

随時加入できます

Ⅱ 新医療保障保険団体型

ニーズの高い病気入院の保障が
低価格で プラスできます！



① 疾病・傷害、いずれも保障の対象！

② 入院給付金は１日目からお支払します

③ 1入院60日限度　通算1,000日分まで保障

本人プランは入院1日15,000円まで保障

④ 最高89歳まで継続更新可能

⑤ 配偶者・お子様もご加入可能

この保険は当グループ内で１年ごとに収支計算を行ない **剰余金が生じたときは配当金として加入者全員に還元**しています。

お問い合わせ

熊本県歯科医師会 事務局　担当：奥村　TEL096-343-8020

笑顔ヘルC 8020 歯からはじめる

12 主な行事予定 December

2日(水)	第10回常務理事会
5日(土)	歯科医療関係者感染症予防講習会
16日(水)	第11回常務理事会
24日(木)	第8回理事会
28日(月)	事務局仕事納め

熊本県ご当地よ坊さん

熊本県歯科医師会
安心・安全歯科医療推進制度

編集後記

熊本の秋を告げる例大祭も終わり、心地よい風を感じる季節になった。秋といえば、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋。

小春日和に、運動に汗を流したり、紅葉狩りや行楽に出かけるにも絶好の気候である。運動不足の私、今年こそはウォーキングを継続できるよう頑張ってみよう。

秋の夜長にゆっくりと読書を楽しむのもいい。たまには時間を忘れて読みふけってみるのもいいかもしれない。翌日に差し障りのない程度での夜更かしを……。

旬の美味しい食べ物が増え、食欲がＵＰする秋！「収穫祭」という言葉を聞くだけでワクワクしてしまう。もっぱら食べる専門である。

親切なＴさんから、家庭菜園で丹精込めて育てた野菜を時々頂戴する。新鮮で瑞々しい野菜は絶品である。自分で育てるとまた格別ですよ、と野菜の苗をいただくのだが、気がつくと葉がなくなり茎のみに…。これは何の苗だったんだろうと思うほど見るも無残な姿になっている。自分で育てた実は収穫祭を迎えることなく、バッタさんに提供するはめになる。

月下美人の葉も、うちに嫁いできてもう５年目になるが、いっこうに咲く気配もなく花を愛でることなく今年も終わった。自分ばっかり栄養をとってるんでしょう、と言われつつ、愛情をそそいでいるつもりだ。いつか「咲きました！」と胸を張って報告したいと思う。どなたか、来年にむけて育て方をご教授くださいませ。 （T. M）

■発行日／2015年11月5日発行 ■発行人／浦田 健二
■発行所／一般社団法人 熊本県歯科医師会
〒860-0863 熊本市中央区坪井2丁目4番15号
TEL／096-343-8020 FAX／096-343-0623
URL／http://www.kuma8020.com
■印刷所／コロニー印刷